

高技術から生まれる プリント基板と12の特許を誇る 自社開発加工設備

納期相談 企画力自信有 コスト相談 オンライン技術 メイジンジャパン 試作可小ロット 量産対応



一貫性のある生産ラインで 高品質、低コストを実現



独自開発のCCDカメラ・アライメントルーター加工機を導入

電化製品のポリウム調節部品等、もとは可変抵抗器の製造からスタートした皆見電子工業。部品の元となる基板の切断機を、それまでの刃物で切り落とすシャーリング法から回転式のロータリー法へと改良し、より安全で大量の生産を可能にした。この技術が認められ、基板を固定の形状に打ち抜くプレス作業やドリルでの穴明け、さらに刃物で基板を削るルーター加工へと徐々に事業を拡大させてきた。

この経緯を活かし、現在では、削る、明ける、抜く、刷るという一貫性のある生産ラインを確立。一社で作業の全プロセスを担えるという守備力の広さを武器に、高品質・低コストを実現し、自動車や携帯電話、パチンコ機台等に使用されるプリント基板の製造を行っている。

また、削る際に用いる端面研磨機や高精度ルーター加工、抜く・シーンで活躍する業界初高性能・高速自動マイクロプロ

レス機の導入等、各工程一つひとつが業界屈指の最新マシンによる高い技術が確立。さらに、写真法による線間および回路幅100μmの刷る印刷技術をはじめ、基板切断・基準穴明、外周加工、スルーホール加工、外形加工、Vカット・面取加工等、製造に関わる周辺加工機器の自社開発により、スムーズで高精度な製造ラインを実現。これらが評価され、自社製品のプリント基板に留まらず、大手デジタル家電メーカーからの受注率100%の実績を誇っている。

現場の声から生まれた 12件の特許、 3件の実用新案を取得

自社開発機の中でも、抜く工程で活躍するマイクロプレス機は、プリント基板業界初のサーボ制御を搭載。加工時の垂直精度を従来の50μmから8μmへと改善させたことにより、製品の材質、形状に応じて加工モーションを変更し、バリなしの端面仕上がりを実現させた。また、削る工程では2009年、業界初の『6軸独立カメラ付認識機能付ルーター加工機』を導入。加工が極めて難しい複雑な形状や、作業が厳しい寸法精度±30μm以内の材料加工が可能になった。このように、製造現場の声から生まれた自社開発機器は、12件の特許、3件の実用新案を取得。より良い製品づくりへの相乗効果を生んでいる。

今後は、これまで蓄積したノウハウを活かし、プリント基板だけでなく、木材やガラス製品の加工も視野に入れているという同社。それぞれの高い技術力をさらに飛躍させ、新たな分野での製品開発を視野に入れる等、自社発信していく企業として、さらなる発展をめざしている。

Company Profile

皆見電子工業株式会社

住 所 〒572-0025
寝屋川市石津元町10-32
TEL 072-829-7371
FAX 072-827-0253
設 立 昭和41年11月
資本金 3,000万円
従業員 250名
代表取締役 皆見 孝

■主な事業内容
プリント配線基板の製造・販売

■主な取引先
大手デジタル家電メーカー 等

<http://www.mdk-j.com>

他社には
負けない

当社のものづくり セールスポイント

ものづくりは、人づくり。
商品開発を支える
一人ひとりのマンパワー!

代表取締役 皆見 孝 さん



優れた商品を生み出すには、社員一人ひとりのマンパワーが必須です。弊社では、時代のニーズをキャッチし自発的に物事を考える力を養えるよう、外部講師を招くなどの研修を積極的に行い、人材育成に力を入れています。